



長い腕を伸ばして木をガッチリとつかむ

経験と勘がものを言う林業の現場ですが、機械化も着実に進んでいます。  
組合では、すでに集材機「フオワード」(三台)、造材機「プロ

## 腕の長さはダテじゃない

### ロングリーチハーベスタを 導入しました

セッサ」(一台)、作業道開設のための機械「フェラーバンチャザウルスロボ」を導入し、これら高性能林業機械が活躍しています。

これらの機械を駆使し、昨年度は約九千m<sup>3</sup>の素材を生産。今年度は一万m<sup>3</sup>を目標としています。

今年二月、新たに「ロングリーチハーベスタ」が加わりました。この機械は、文字どおり長い腕を使い、機械から遠く離れた樹木をつかみ、伐倒、枝払い、玉切りまでを一台で行える優れたもので、現場での作業効率が大

幅に向上しています。  
伐倒できる木の最大径は五十 cm、十メートルまで伸びるテレスコピックアームを備えています。

## CLTをご存じですか？

PCR、SNS、CEOなど、世の中にはアルファベットの3文字言葉があふれかえています。漢字であれば多少省略されていても何となく意味がわかりますが、アルファベットではそうもいきません。そこで、あえて皆さんにお尋ねします。CLTはご存じですか？



群馬県初のCLT建築「榛名神社奉納額収蔵庫」

CLTの省略前のつづりは、Cross (クロス) laminated (ラミネーティッド) timber (ティンバー)。直訳すると、木材の繊維方向を直交させた集成材、日本語の呼称は「直交集成板」となります。

木材は火災に弱い、また強度も低く中高層建築の構造材には使えない。そんな固定概念を覆す木材、それがCLTです。

このCLTの発祥はオーストリアで、ヨーロッパではこのCLTでつくった高層建築が数多く建てられています。

わが国でも、政府が「CLTの普及に向けたロードマップ」を作成する等、普及を進めており、すでにホテル、校舎、オフィスビルなどが、このCLTを使って建築されています。

組合の管内では平成29年2月に竣工した榛名神社の奉納額収蔵庫が、このCLTでつくられています。